

路上イベント開催が中心市街地にもたらす効果に関する研究

秋田大学 学生会員 ○草薨 理天
 秋田大学 学生会員 成田 圭佑
 秋田大学大学院 正会員 日野 智

1. はじめに

中心市街地の衰退が地方都市の多くで課題となつて久しい。その対策として様々な施策が講じられてきたが、本研究では路上イベントに着目した。国土交通省も道路占有許可の弾力的運用など、道路空間のさらなる利活用を推進している。本研究では秋田市で実施された路上イベントを対象とし、イベント開催による中心市街地の賑わい創出の効果や有用性について明らかにすることを目的とする。

2. 意識調査の概要

本研究では、秋田市の中心市街地で開催された路上イベントである「広小路バザール」来訪者を対象に意識調査を行った。普段の中心市街地への訪問実態やバザール当日での行動履歴等を質問している。調査は令和4年9月に実施し、調査票は600部を配布し、193部を回収した。回収率は32%であった。被験者の年代は40代から50代の割合が比較的高く、家族連れが多い結果となった。

3. 中心市街地への訪問実態

意識調査では、休日によく外出する地域やこの一ヶ月での中心市街地の訪問頻度や訪問しやすさを質問している。図-1に休日によく外出している地域を示す。中心市街地よりも大型ショッピングモールが立地している御所野地域へよく外出する被験者が多い。すなわち、普段は中心市街地を訪問していない被験者の多くが広小路バザールに参加しており、バザールによる集客効果があらわれていると考えられる。

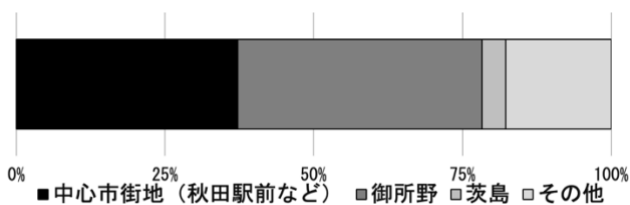


図-1 休日によく外出する地域

次に、中心市街地への訪問のしやすさと休日によく訪問する地域との関係を図-2に示す。中心市街地を「訪問しやすい」と回答した被験者の多くが休日に中心市街地をよく訪問していることがわかる。一方、「訪問しづらい」と回答した被験者は御所野地域をよく訪問する傾向にある。

中心市街地に「訪問しづらい」と回答している被験者の大半が中心市街地への訪問頻度が「月に1~2回程度」以下となった。すなわち、中心市街地への訪問しやすさが訪問頻度に影響していると推測される。

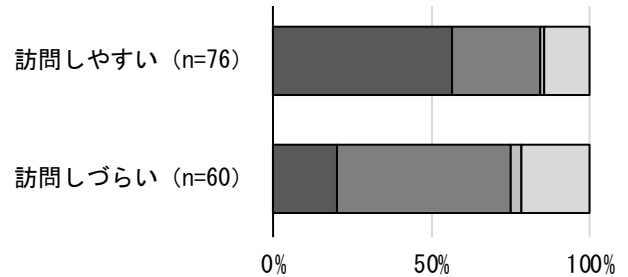


図-2 中心市街地への訪問のしやすさとよく訪問する地域

4. 路上イベントがもたらす効果

(1) 中心市街地への賑わい創出

調査では、「広小路バザール」当日の満足度やイベント開催時の歩行者天国の評価を質問している。「広小路バザール」自体の満足度を12項目で5段階評価してもらった結果を図-3に示す。

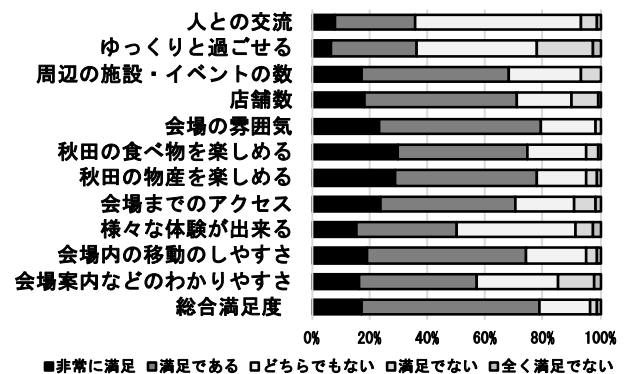


図-3 広小路バザールの各満足度

キーワード：路上イベント、意識調査分析、中心市街地活性化、余暇行動

連絡先：〒010-8502 秋田市手形学園町1-1、TEL(018)889-2359、FAX(018)889-2975

全体的に「非常に満足」「満足である」と回答した割合が高い結果となった。しかし、「人との交流」「ゆっくりと過ごせる」の項目に関しては満足とする割合が低い。「人と交流できること」については COVID-19 の感染拡大状況が要因と考えられる。「ゆっくりと過ごせること」については、自由記入欄に「イベント会場内で日陰のあるところが少ない」や「座れるイスが少ない」といった意見が多く、これらが要因と考えられる。

次に、この1ヶ月での休日の中心市街地への訪問頻度と「広小路バザール」開催時の歩行者天国で感じたこととの関係を図-4 に示す。歩行者天国に「感じたことはない」と回答した被験者は3人だけであった。また、中心市街地への訪問頻度が高い被験者、低い被験者ともに歩行者天国に対して良い印象を持っていることがわかる。これらのことから、歩行者天国という路上イベントとして実施された広小路バザールが中心市街地の賑わい創出に寄与したものと推測できる。

(2) 中心市街地への回遊性の効果

中心市街地において、普段の休日でよく訪問する施設と「広小路バザール」当日に訪問した施設の関係を図-5 に示す。バザール当日では訪問割合が低くなっている施設があるものの、文化施設（音楽・芸術鑑賞・図書館など）では割合が高くなっている。「広小路バザール」当日に「秋田芸術劇場ミルハス」や「秋田市文化創造館」等の中心市街地の文化施設と連携してイベントを同時開催していたためと考えられる。普段は文化施設へ訪問しない被験者もイベントを機に文化施設を訪問したと推測される。さらに広小路の大半を歩行者天国としたことで、普段よりも移動範囲が拡大したものと考えられる。

5. 中心市街地への訪問のしやすさの改善

中心市街地へ「訪問しづらい」と回答した被験者に対してどういった理由で訪問しづらいと感じているのか10項目で要因を質問した。図-6 より「駐車料金が高い」「駐車場が停めにくい」「一方通行など道路がわかりにくい」などといった項目が中心市街地への訪問を阻害する要因となっていた。今後は駐車場の問題点の改善によって中心市街地への滞在時間を増加させることや、広小路などの道路状況の改善により中心市街地の訪問しやすさを改善することが必要になる。

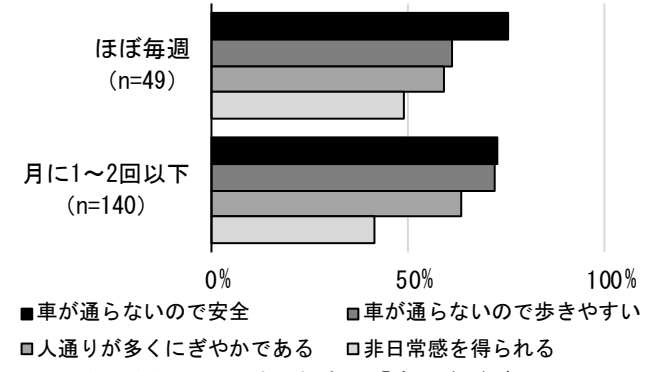


図-4 中心市街地への訪問頻度と「広小路バザール」当日の歩行者天国で感じたこと

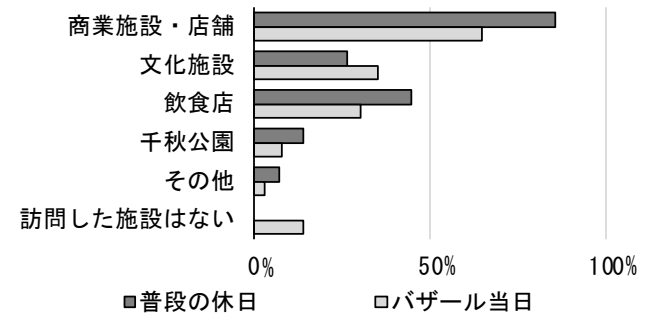


図-5 休日によく訪問する施設とバザール当日に訪問した施設 (n=193)

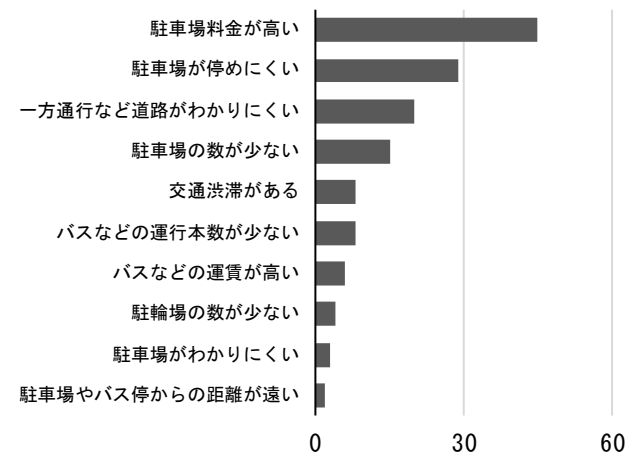


図-6 中心市街地へ訪問しづらい理由 (n=62)

6. おわりに

本研究では、ソフト事業である路上イベント「広小路バザール」が中心市街地にもたらした効果を意識調査から分析した。賑わい創出の面では「広小路バザール」自体の満足度は全体的に高く、バザール開催時の歩行者天国に関して、普段中心市街地へ訪問しない人でも良い印象を持っていた。以上より路上イベントを通して中心市街地への賑わい創出の効果は十分であると言える。また、回遊性の面では普段訪問しない文化施設（音楽・芸術鑑賞・図書館など）を訪問していることが明らかとなった。路上イベントの開催により、普段中心市街地へ来訪しない人でも来訪し、中心市街地を回遊するきっかけになりうるといえる。